平成 26 年度　研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア／アフリカ言語文化コース・准教授
氏名　Name	林　初梅
専門分野 Academic Field	言語社会学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	現代台湾における植民地記憶の語りに関する社会学的研究

科研費で進めている研究（基盤研究（C)「記憶の装置としての学校―現代台湾における植民地記憶の語りに関する社会学的研究」研究代表者：林初梅）は三年目に入った。

（１） 研究成果として 2014 年度は以下の論文を発表した。

- 林初梅「台湾に現れた三つの郷土教育―郷土探し、そして植民地時代の「遺緒」との出会い」檜山幸夫編『歴史のなかの日本と台湾』、中京大学社会科学研究所、2014 年、pp. 195−221
- 林初梅「植民地記憶の語りのなかの「郷土」―1945 年を境とする連続・断絶」2014 年 6 月 14 日日本比較文学会第 76 回全国大会ワークショップ「ナショナリズムと郷愁―〈郷土〉の虚構性と重層性」（於成城大学）

（２）社会への発信を目的として、2014 年度は以下の研究者から協力を頂き、研究会を開催した。

- 第３回研究会：赤松美和子「現代台湾映画における「日本時代」を考える」
  蔡蕙頻「職業を持つ台湾人女性のエリート意識の形成について：看護婦を例として」、
- 第４回研究会：王耀徳／林容慧「1945 年前後台湾の化粧文化」
  石井清輝「日本統治期の遺構の保存活動における「日本」の位置―台湾における日本式木造家屋群を対象として」
- 第５回研究会：石計生「歌謡、歌仔本、雑誌の伝播：日台国境を越えた戦後初期の中野忠晴の文化的影響」
  橋本恭子「父を語る、台湾を語る　――　台北帝大教員の子供たちが語る台湾体験」、
  林初梅「現代台湾における植民地記憶が形成される土壌―日本人引揚者同窓会の戦後に注目して」